



平成24年度 在宅医療連携拠点事業成果報告

報告日：平成25年3月23日（土）
施設名：白山石川医療企業団 公立つるぎ病院
所在地：石川県白山市鶴来水戸町ノ1番地
連絡先：076-272-1250

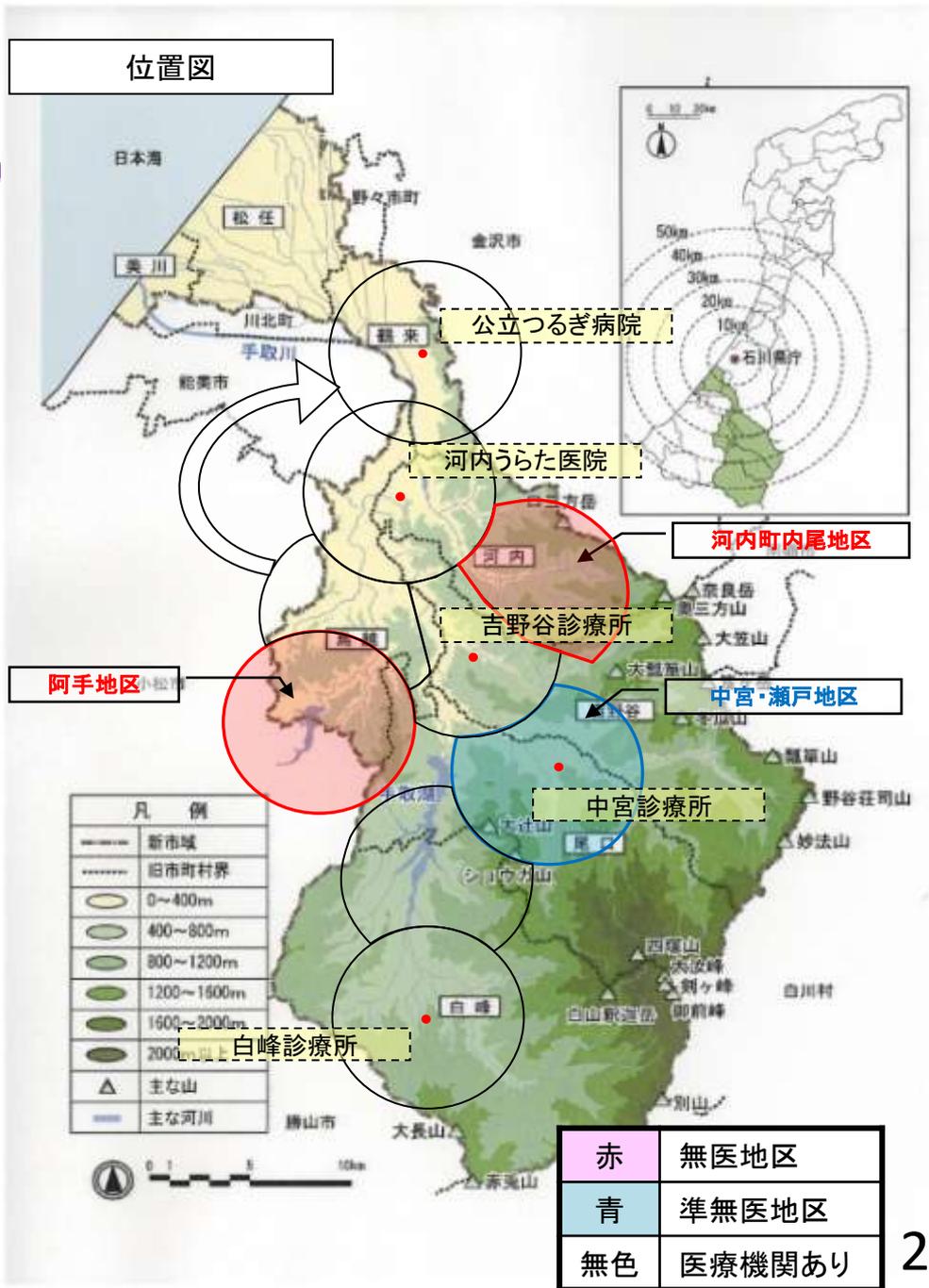
地域の特性

鶴来、白山ろく地域

H24.4.1現在

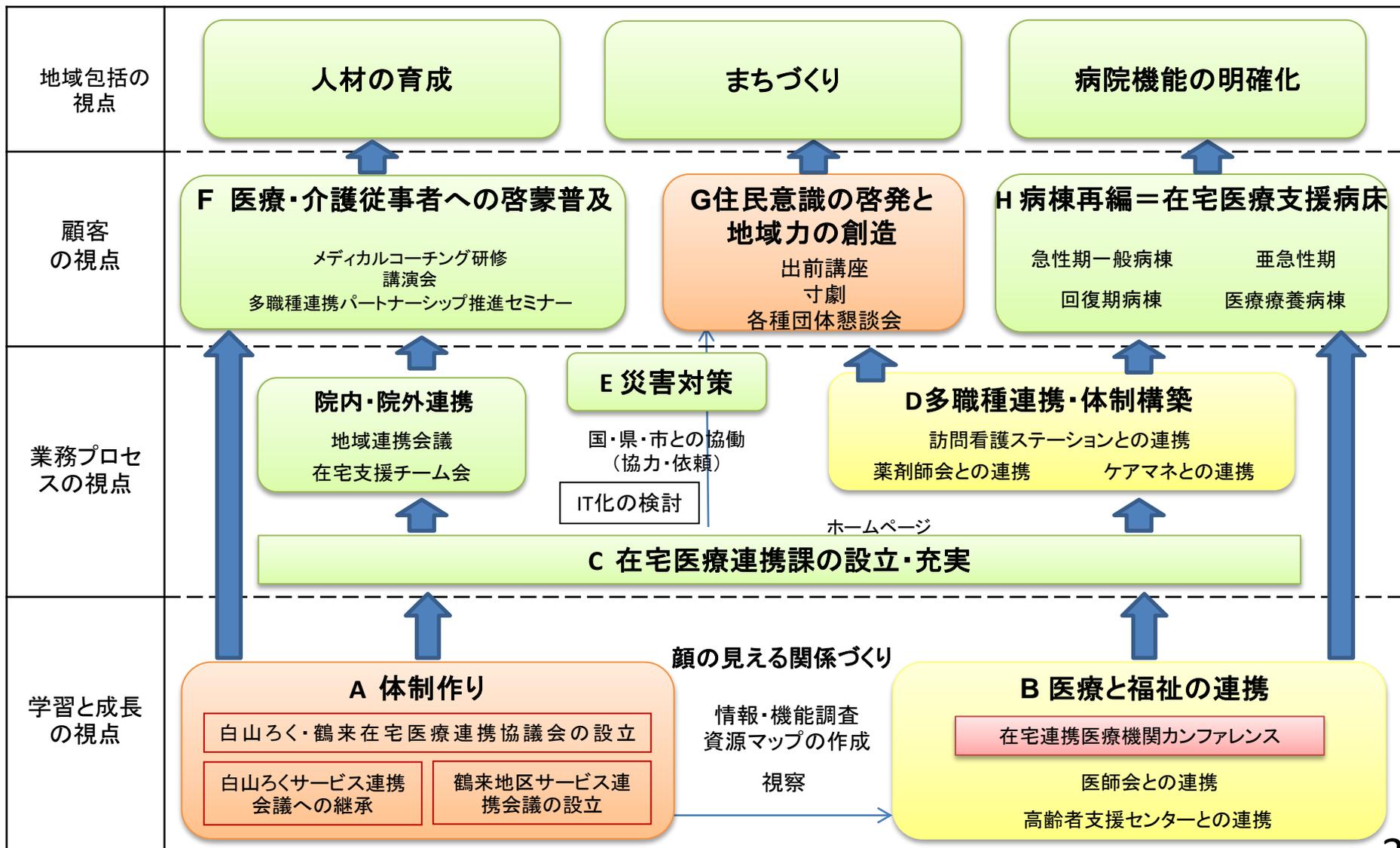
項目	鶴来	白山ろく
面積	35.64 km ²	650.48 km ²
人口	22,597 人	6,768 人
世帯	7,765 世帯	2,387 世帯
65歳以上 高齢者数	4,669 人	2,279 人
65歳以上 高齢化率	20.7 %	33.7 %
75歳以上 高齢者数	2,301 人	1,405 人
75歳以上 高齢化率	10.2 %	20.8 人
介護認定者数	779 人	461 人
備考	松任地域と白山ろく地域の中間に位置する地域で、北陸鉄道鶴来駅を中心に市街地が形成されている。	白山市の南部に位置する山間地域で、少子高齢化の進行が顕著であり、市内において最も高齢化率が高い地域。

※ 白山市が定める日常生活圏域に基づく。



在宅医療連携拠点事業

公立つるぎ病院 在宅医療連携拠点事業



地域での医療・介護にまつわる背景、問題点

白山ろく地区

- (1) 広大な地域であるが、無医地区(2箇所) 準無医地区(1箇所)が存在する
- (2) チーム医療・ケアが不可欠
→高齢者サービス調整会議の必要
- (3) 専門職との連携や在宅医療・介護従事者の負担
- (4) 一人暮らし高齢者の「在宅看取り」
- (5) 1人医師体制での限界
(夜間、休日、出張等不在時など)

地域での医療・介護にまつわる背景、問題点

鶴来地区

- (1) 訪問看護師と病院医師との連携が図りづらく、診療内容が分かりづらい
- (2) 医療依存度の高い患者の継続的な在宅療養支援
- (3) 多様化する医療ニーズへの対応と専門性の発揮
- (4) 多職種が一堂に会する場がない
- (5) 24時間診療体制を構築している診療所が少ない

組織化

◆多職種が一堂に会する場の設定



白山ろく鶴来在宅医療連携協議会			
構 成 員	白山のいち医師会 白山ろく、鶴来地区の診療所・病院 訪問看護ステーション(石川県医療在宅ケア事業団) 行政(白山市高齢者支援センター) 白山石川医療企業団 公立つぎ病院 上記より各代表者(計 8人)		
【職種】 医師、看護師、行政事務職、事務職 ※何れも管理職者			
事 務 局	公立つぎ病院 看護師(介護支援専門員) 2人 MSW 2人	事務職	3人
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・石川県医療在宅ケア事業団 訪問看護管理部長 ・石川県立看護大学 看護学博士 在宅看護学講師 ・白山石川医療企業団 企業長 		

白山ろくサービス連携会議	
構 成 員	白山ろく内に事業所を有する医療・福祉関係機関並びに、白山ろく内に介入する医療・福祉関係機関の各施設代表者
【職種】	医師、看護師、ケアマネジャー、作業療法士(訪問リハビリ担当者)、薬剤師、歯科医師、行政(保健師、看護師、作業療法士、栄養士、事務職)、事務職

鶴来地区サービス連携会議	
構 成 員	鶴来地区内に事業所を有する医療・福祉関係機関並びに、鶴来地区内に介入する医療・福祉関係機関の各施設代表者
【職種】	医師、歯科医師、薬剤師、看護師、ケアマネジャー、作業療法士(訪問リハビリ担当者)、行政(保健師、作業療法士、社会福祉士、主任介護支援専門員)、事務職

B.医療と福祉の連携

在宅連携医療機関カンファレンス

在宅療養支援診療所・支援病院

医師、看護師、ケアマネ、OT等で構成



平成24年4月より開始

U医院

S診療所

Y診療所

T病院

平成24年11月より参加

Y医院

平成24年12月より参加

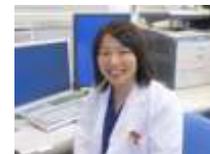
S医院

Oクリニック

Y医院

平成25年1月より参加

Tクリニック



(月1回開催)



活動内容・実績

■ **メディカルコーチング研修～医療コミュニケーションのためのヒント～**

／ 相州メンタルクリニック相模大野、高知大学医学部非常勤講師、メディカル&ライフサポートコーチング研究会代表

奥田 弘美 先生



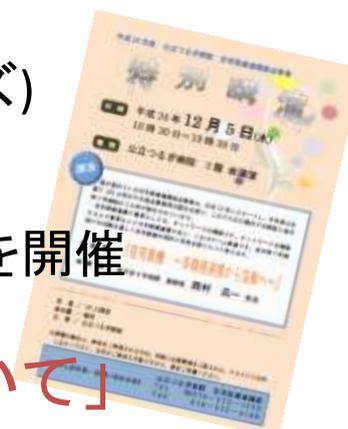
■ **多職種連携パートナーシップ推進セミナー**

／ 石川県立看護大学 彦 聖美 先生

⇒ テーマ:「コミュニケーションスキルを磨く」(4回シリーズ)

5回目には「**特別講演**」として、

西村 元一 先生(金沢赤十字病院 副院長)による講演会を開催



■ **「地域住民の死生観と終末期療養ニーズについて」**

／ 石川県立看護大学 浅見 洋 先生

⇒ 地域住民の思いに寄り添い、専門性を発揮して、地域に根ざした包括的医療・ケアの実現を追求する。



G.住民意識の啓発と地域力の創造

- ・特別企画(白山ろくサービス連携会議にて企画)
講演会・寸劇の実施



- ・婦人会への出前講座・意見交換会

高齢化が進む中、認知症についての知識を得たい。また、病院職員と話し合う機会を設けたいとの要望があり実施に至った。

- ・民生委員へのアプローチ 拠点事業の説明と理解

- ・小冊子の作成



今後の課題(地域住民の意識)

まだまだ在宅医療の知識や関心が低いのが現状→**継続**が必要

①国立長寿医療研究センターへ視察

在宅医療支援(南3)病棟 視察



在宅医療を継続するための支援
在宅医療へ移行するための支援



②公立つるぎ病院で

在宅医療支援病床の開設



かかりつけ医及び連携強化型在宅療養支援診療所が気軽に利用でき、かつ質の高い医療を実施するため平成25年度より開設予定。

今後の課題は、「治す医療」だけでなく「支える医療」の大切さを当病院内の医師や地域の診療所の医師に広めていくこと。